

# 令和7年度 札幌市立北白石中学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：34007

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<p>全国学力学習状況調査の結果から</p> <p>◇「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」生徒の割合は、昨年度の結果と比べると著しく多くなっているが、全国平均よりは低い。</p> <p>札幌市の共通指標の集計結果から</p> <p>◇多くの項目で数ポイントの上昇が見られ、改善の兆しが見られる。</p> <p>◇「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」等の項目で80%を超える高い数値になっている。「自分が必要とされていると感じている」では昨年度58.2%から今年度67.3%と大きく増加したが、総じて高い数値とは言えないため継続した努力が求められる。</p>	<p>全国学力学習状況調査の結果から</p> <p>◇学校で学習することの意義を見出すことができず、授業や家庭学習に意欲的に取り組めていない生徒がいること。</p> <p>◇各教科の授業を中心とした学習活動や学級活動等を含めた学校生活全般への取組が積極的でない生徒がいること。</p> <p>札幌市の共通指標の集計結果から</p> <p>◇「自分の意見を進んで発言しようとしている」「自分で計画を立てて勉強している」等の数値が6割に満たない数値となっており、主体的に学ぶとする態度の育成の余地が大きく残っている。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇札幌市の共通指標にある「自分が必要とされていると感じる」等の相互承認に関連する項目において、R5年度58.2→R6年度67.3%と増加傾向にある。学校のカリキュラムや行事予定の検討の中で、時間的・精神的なゆとりを生み出し、生徒と教師間の「対話」の機会を重視してきたことが、自己肯定感の高まりに寄与していると考えられる。今後も、生徒の声に傾聴しながら多様性を尊重し、自信をもてるような機会や価値付けをしていく必要がある。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

## 学びに向かう力・人間性等に着目した相互理解の感度

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
取組	<p>◇研究主題「つながりの中で、探究し続ける生徒の育成」 副主題「共感と協働～つながりを深めるコミュニケーション」</p> <p>→生徒が課題を自分ごととして捉えるための興味や関心をもたせる目標設定や教材の工夫</p> <p>→生徒自ら成長や学びの進捗を自覚できるような、振り返りの機会の設定や自己評価と相互評価の工夫</p> <p>→生徒自ら選択・決定できるような場面の設定</p> <p>→生徒の心理的安全性を確保した中での対話の中から、思考を再構築させる話し合い活動の充実化。</p> 	<p>◇自分たちの手で学校生活をつくる実感がもてる活動の充実</p> <p>→ICTを活用して、生徒の声を反映させ、全校生徒が参画できる活動。(生徒会議案審議や生徒会役員選挙など)</p> <p>→生徒会のリーダーシップのもと、生徒の自主的な活動による学校生活の向上につながる取組の企画(いじめ防止、環境、SDG's等の生徒会企画)</p> <p>→対話や話し合い活動等を通じた合意形成の中で、相互理解と所属感を高める活動。(学校行事における学級活動等)</p>

〈本プログラムの実行に向けて〉

